

2. 「さくらんぼ県やまがた」 の状況について

①「さくらんぼ」と「山形」の歴史

世界のさくらんぼ生産状況

- さくらんぼ（甘果おうとう）の原生地は、小アジア～カスピ海・黒海沿岸地方と考えられており、紀元前1世紀にローマにもたらされた後、ヨーロッパ各地に広まり、日本へは明治初期にアメリカから導入された。
- 現在、生産量が最も多いのは原生地にも近いトルコで約64万トン（日本の約35倍）にのぼり、アメリカ、ウズベキスタンが続いている。日本の生産量は約1万8千トンで、世界では22位となっている。

①さくらんぼ（甘果おうとう）の原産地と日本への伝来経路



<さくらんぼ（甘果おうとう）の原生地>

- 『実験櫻桃栽培法』（杉山昌治、1929）
 - ・欧州一帯に多く、ロシア南部、北アフリカ等に稀に野生。アジア南部、北部インド地方にも普通野生。
- 『櫻桃の作り方』（岡田東作、1930）
 - ・欧州中部及びアジア西部。
- 『果樹園藝學 上巻』（菊池秋雄、1948）
 - ・アジア西部からカスピ海及び黒海沿岸地方。
- 『栽培植物の起原と伝播』（星川清親、1973）
 - ・イラン北部からコーカサスを経てヨーロッパ西部までの山地。

出典：『果樹園藝學 上巻』（菊池秋雄）、『栽培植物の起原と伝播』（星川清親）等より作成

①各国のさくらんぼ（甘果おうとう）生産量

順位	国名	生産量（t）
1位	トルコ	639,564
2位	アメリカ	312,430
3位	ウズベキスタン	172,035
4位	チリ	155,935
5位	イラン	137,268

順位	国名	生産量（t）
6位	イタリア	114,798
7位	スペイン	106,584
8位	ルーマニア	90,837
—	—	—
22位	日本	18,100

出典：FAO（国連食糧農業機関）統計（2018）

「さくらんぼ県やまがた」の地位の確立

- 明治8年（1875）に内務省勸業寮から配布された苗を山形県（旧）の県庁敷地内等に試植したのが最初。
- 初代県令・三島通庸らの積極的な洋種果樹導入の取組みや、民間篤農家の地道な努力があっただけでなく、本県の気候風土が桜桃栽培に適していたこともあって栽培が広がり、大正期には収穫量で全国の約4割を占めている。
- 明治43年には、本県で「桜桃名称一定会」が開催され、それまで地域でばらばらだった品種名称の統一が図られている。

①明治～昭和初期のさくらんぼの生産状況

(1) 主要道府県別桜桃統計(『実験桜桃栽培法』(杉山昌治)より)

府県名	明治42年	大正8年	大正13年			明治42年樹数対		大正13年
	樹数 (本)	樹数 (本)	樹数 (本)	収量 (貫)	価格 (円)	大正8年 (%)	大正13年 (%)	全国生産対 (%)
福島	14,022	59,382	74,076	128,257	107,282	423	528	23.52
山形	21,073	67,428	67,528	226,994	249,616	319	320	41.66
秋田	2,361	11,583	27,988	27,091	36,547	491	1,185	4.97
北海道	12,291	24,511	27,582	89,384	127,472	199	224	16.41
青森	890	10,691	11,627	34,752	50,149	1,200	1,310	6.37
長野	610	3,267	5,207	8,026	17,237	536	854	1.47
新潟	2,348	2,306	4,108	5,259	13,797	94	171	0.96
山梨	50	721	3,133	4,244	23,879	1,442	6,266	0.78

(注) 1貫＝3.75kg

(2) 昭和8年の主産地の収穫高等
(「第10次農林省統計表」より)

府県名	収穫高		価格	
	(貫)	(%)	(円)	(%)
全国	1,510,981	—	904,601	—
山形県	572,295	37.9	281,144	31.1
福島県	393,034	26.0	214,630	23.7
山梨県	45,729	3.0	89,625	9.9
北海道	160,092	10.6	87,196	9.6

②山形県でのさくらんぼ栽培が成功した要因

「(前略) 其期節 (= 成熟期) に降雨多き地方にては硬肉種の栽培頗る難事とすべく、寧ろ之れを避くる方経済上有利なりと言ふべし。(中略) 桜桃栽培に当りては大気及び土壤の湿気に注意し殊に暖地に於ては乾燥著しくして花芽の着生容易なる地を選ぶに非ざれば結果少なきものなり。
山形県に於て桜桃の結果良好なるは気温比較的低くして樹の發育を抑制し、降雨量比較的少なく、且冬季間の降雨多きも開花成熟期及び花芽の分化期に於て著しく乾燥するを以てなり。」
(『実験桜桃栽培法』(杉山昌治、1929))

③桜桃名称一定会



- ・日本園芸会山形県支部の建議により、日本園芸会主催の第1回「桜桃名称一定会」が山形県農事試験場で開催。(明治43年6月)
- ・各産地より果実及び枝葉を持ち寄り、欧米の記載と実物との対照を行い、主要品種に和名(協定名称)を付した。
(例) ナポレオン・ビガロー → 那翁
 ロックポート・ビガロー → 高砂
 アーリー・パープル・ギーヌ → 日の出

山形県におけるさくらんぼ栽培の広がり

- 本県のさくらんぼの栽培は、既に戦前から地域的特徴が現れており、昭和12年の時点で村山地域が全体の約56%を占め、次いで置賜地域が約42%となっている。
- 戦後はこの傾向が更に顕著となり、平成2年には、村山地域が栽培面積で約88%、収穫量で約97%を占めるに至っている。
- また、本県のさくらんぼの生産量は、昭和31年に戦前の最高記録を上回り、昭和58年には史上最高の大豊作を記録。近年は14,000 t 前後で推移しており、全国の約8割と圧倒的な1位の座を占めている。

①県内地域別のさくらんぼの生産状況

(1) 戦前の栽培面積の推移(単位：町)

郡市	明治33年	明治44年	昭和8年	昭和12年
山形市	2.00	11.30	19.50	30.40
南村山郡	1.20	5.80	43.04	56.21
東村山郡	4.90	19.80	77.91	97.09
西村山郡		7.20	15.29	25.33
北村山郡	0.60	7.70	27.50	34.34
最上郡	0.30	0.90	2.40	2.70
米沢市	7.00	9.70	45.50	32.50
南置賜郡	0.20	2.50	14.55	18.60
東置賜郡	0.60	8.10	40.22	114.74
西置賜郡	0.50	2.30	6.85	16.62
東田川郡		0.50	27.40	5.20
西田川郡	12.50	3.00	1.61	2.48
飽海郡	0.10	0.60	2.20	1.83
計	29.90	79.40	323.97	438.04

※戦前の栽培面積の地域別割合

地域	明治33年	明治44年	昭和8年	昭和12年
村山地域	29.1%	65.2%	56.6%	55.6%
最上地域	1.0%	1.1%	0.7%	0.6%
置賜地域	27.8%	28.5%	33.1%	41.7%
庄内地域	42.1%	5.2%	9.6%	2.2%

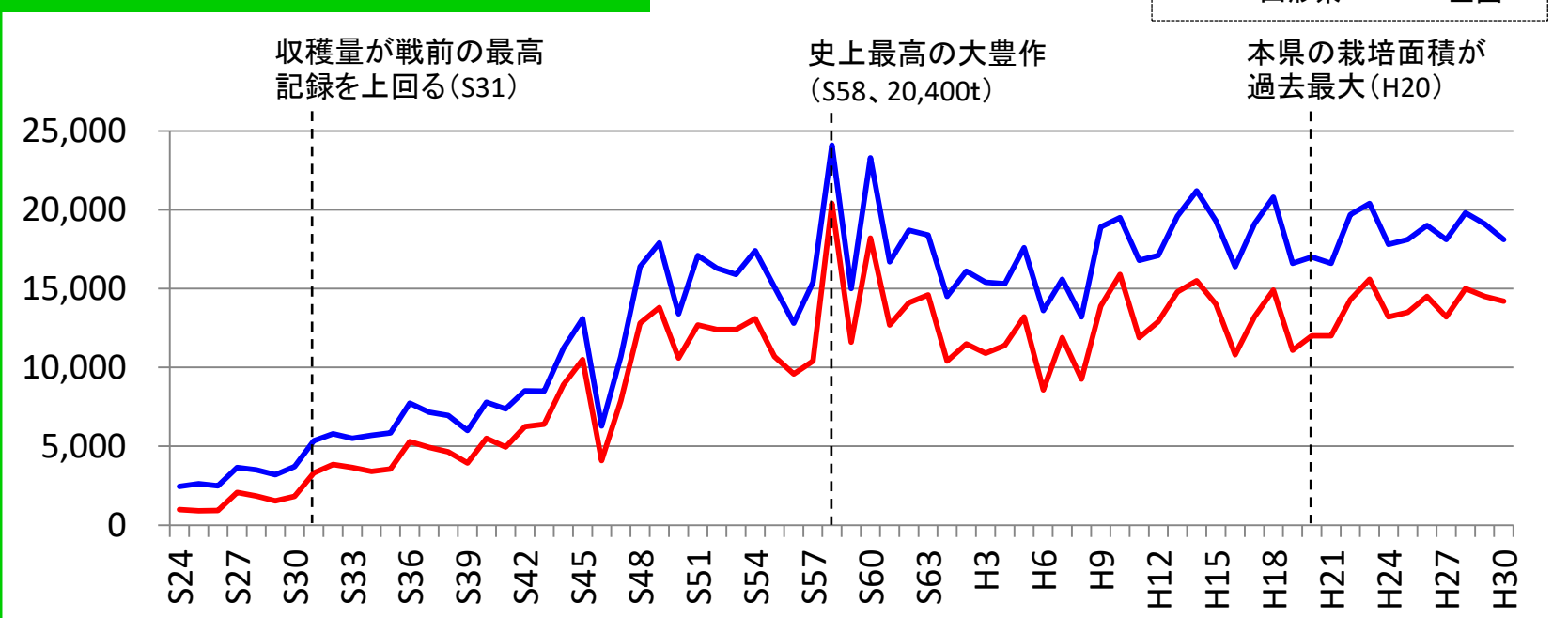
出典：『山形県史 農業編(中)』第66表、第67表、第132表より作成

(2) 戦後の栽培面積及び収穫量の推移(単位：ha、t)

地域	昭和35年		昭和45年		昭和55年		平成2年	
	栽培面積	収穫量	栽培面積	収穫量	栽培面積	収穫量	栽培面積	収穫量
東南村山	151	718	357	4,007	495	3,364	603	3,482
西村山	179	1,194	261	2,104	537	2,462	506	3,295
北村山	38	285	282	3,093	456	3,497	525	4,299
最上	1	3	7	6	0	0	52	1
東南置賜	151	1,232	149	1,138	211	1,269	144	393
西置賜	11	79	15	100	16	97	15	20
庄内	5	43	7	62	8	53	15	22
計	536	3,560	1,080	10,500	1,720	10,700	1,860	11,500

出典：「青果物生産・出荷統計調査」

②さくらんぼの生産量の推移(戦後)



出典：「青果物生産・出荷統計調査」 8

山形県におけるさくらんぼ栽培の歴史（明治～）

年	事項	備考
1868年 （明治元年）	・函館在住のドイツ人・ガルトネルが渡島国亀田郡七重村（現北海道亀田郡七飯町）にさくらんぼ等の外国品種の果樹を試植。	・国内でのさくらんぼ栽培の初め
1875年 （明治8年）	・内務省勸業寮が外国品種の果樹等の苗を各府県に配布。	・山形県（旧）では果樹10種等を県庁構内に試植（うち、さくらんぼ3本）。 ・置賜県では果樹12種を県内に試植（同2本）。
1876年 （明治9年）	・初代県令・三島通庸が北海道開拓長官・黒田清隆を通じて外国品種のりんご、ぶどう、さくらんぼの苗木300本を求め、山形市香澄町に試植。	・8月、山形県（村山・最上）、置賜県（置賜）、鶴岡県（庄内）が合併し現在の山形県が誕生。
1878年 （明治11年）	・県、試験場千歳園（現・県立山形東高校敷地）を設置（8月）。	・勸業寮から払い下げられた1,000本余りの西洋果樹を千歳園に試植（うち、さくらんぼ98本）
1885年 （明治18年）	・県、三田育種場より24品種の苗木を取り寄せ、県内に配布。	
1888年 （明治21年）	・山形から仙台まで荷車等でさくらんぼを運び、出荷する者が出る。	
1903年 （明治36年）	・奥羽本線が新庄まで開通。鉄道による長距離輸送が可能となり、果樹の栽培面積が急激に増加。	・本県のさくらんぼの栽培面積 明治33年：29.9町→明治44年：79.4町
1908年 （明治41年）	・新たに1町2反歩の試験園（山形市鉄砲町）を設置し、農商務省の補助金を受け山形県農事試験場においてさくらんぼの品種試験を実施。	・フランス種14品種、アメリカ種26品種など51品種について試験。 ・1918年（大正7年）に第一、1923年（大正12年）に第二の報告書提出。
1910年 （明治43年）	・6月、山形県農事試験場で日本園芸会主催の第1回「桜桃名称一定会」を開催。	・主要品種に和名（協定名称）を付す。 （例）ナポレオン・ビガロー → 那翁 アーリー・パープル・ギーヌ → 日の出
1912年 （大正元年）	・東根市の佐藤栄助、「佐藤錦」の育成を始める。	

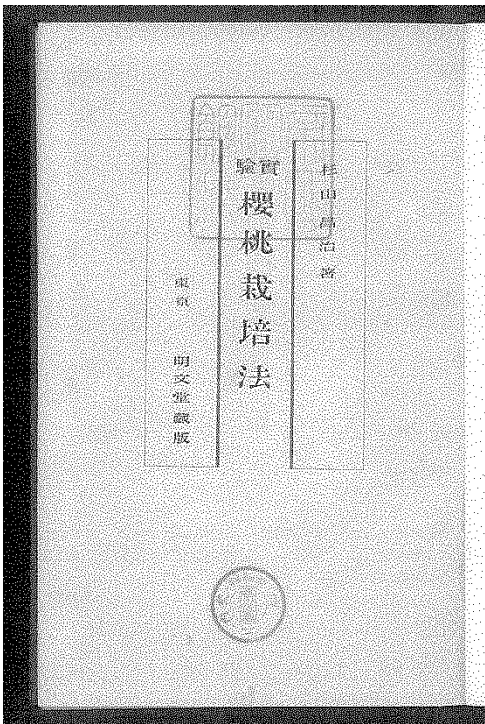
山形県におけるさくらんぼ栽培の歴史（戦前）

年	事項	備考
1913年 （大正2年）	・山形県農事試験場でさくらんぼの缶詰や瓶詰などの加工製造の試験開始。	
1919年 （大正8年）	・山形県農事試験場の桜桃缶詰試験の製品を東京三越呉服店に陳列、好評を得る。	
1924年 （大正13年）	・山形県農事試験場でさくらんぼのイギリス種20品種を輸入。	
1929年 （昭和4年）	・3月、『実験桜桃栽培法』刊行	・山形県農事試験場でさくらんぼの試験研究に携わる杉山昌治氏が、研究の成果等をもとに上梓。
1930年 （昭和5年）	・県、県外移出に有望な桜桃・葡萄・梨・柿の四種の栽培を奨励。	（桜桃の奨励方針） ・桜桃は、適地として村山・置賜での増殖を奨励。 ・桜桃の奨励品種：那翁を主、黄玉・大紫を配する。
1933年 （昭和8年）	・本県のさくらんぼ収穫高が戦前で最高を記録。	・収穫高572,295貫（2,146 t）で全国の約38%。（全国1位）
1942年～ （昭和17年）	・時局悪化に伴う食糧確保に迫られ、多くの果樹が強制伐採される。	

①「実験桜桃栽培法」（杉山昌治、1929）の序文より

「桜桃は果実中其熟期最も早く色沢艶麗にして美味生果として広く一般の嗜好に適するのみならず缶詰・瓶詰・菓子・果汁等を製造加工し得るべく其需要広範（中略）北海道及び青森・山形の両県は其栽培の歴史最も古しと言はるゝも管理に注意を払はるゝに至りて未だ僅かに二十余年に過ぎず是れを思へば桜桃の栽培は比較的等閑に付せられたるの観なき能はず。

然るに最近是が需要は頓に増加し栽培地域は著しき勢いを以て拡大されんとしつゝあり。即ち山梨・長野・新潟・鳥取・島根等長足の進歩を示し広島新たに増殖の計画なる。（中略）斯時に際し栽培管理の指針に乏しく之に関するの著書殆んどなし。最近之れが質問頗る頻繁に応答に忙殺されつゝあるの狀態に鑑み予が山形県農事試験場（中略）に於て試験研究によりて知り得たる知識を基礎とし内外諸大家の著書在米当時觀察調査研究せる事項等を参考とし（中略）一書を編し之れを上梓することゝせり。」



②桜桃の生産高の推移（戦前）

年	収穫高(貫)	
	全国	山形県(%)
大正2年	259,186	110,295(43%)
大正7年	374,904	157,462(42%)
大正12年	513,322	224,324(44%)
昭和3年	994,147	373,987(38%)
昭和8年	1,510,981	572,295(38%)
昭和13年	1,324,655	423,229(32%)
昭和17年	1,320,413	465,921(35%)

出典：「農商務統計表」「農林省統計表」

山形県におけるさくらんぼ栽培の歴史（戦後～）

年	事項	備考
1945年 (昭和20年)	・山形県農事試験場でさくらんぼの特性・発育調査開始。（～1949年）	・本県に適する栽培品種は「日の出」「ジャボレー」「黄玉」「ナポレオン」「高砂」「佐藤錦」の結果。
1956年 (昭和31年)	・収穫量が戦前の最高記録を上回る。	・収穫量3,310 t で全国の約62%。（全国 1 位）
1959年 (昭和34年)	・栽培面積が戦前の最高記録（S16：497ha）を上回る。	・栽培面積499haで全国の約48%。（全国 1 位）
1965年 (昭和40年)	・山形県立園芸試験場（寒河江市）設立。	
1966年 (昭和41年)	・さくらんぼが「県の木」に制定される。	
1974年頃 (昭和49年)	・このころから本県さくらんぼの生食向けの比率が高まる。	・昭和45年 生食向け 2,290 t（22.9%） 加工向け 7,700 t（77.1%） ・昭和55年 生食向け 6,330 t（62.1%） 加工向け 3,863 t（37.9%）
1978年 (昭和53年)	・米国産さくらんぼの輸入自由化。	・1982年からカナダ産、1985年からニュージーランド産のさくらんぼも自由化。
1983年 (昭和58年)	・本県でさくらんぼが史上最高の大豊作を記録。	・収穫量20,400 t で全国の約85%。
1988年 (昭和63年)	・本県の佐藤錦の栽培面積がナポレオンを抜き最大となる。	・佐藤錦798ha、ナポレオン677ha、計1,660haで全国の約61%。 （収穫量は14,600 t で全国の約79%）
2008年 (平成20年)	・本県のさくらんぼの栽培面積が過去最大となる。	・栽培面積3,180haで全国の約61%。 （収穫量は10,700 t で全国の約71%）
2018年 (平成30年)	・本県のさくらんぼの産出額が過去最大となる。	・産出額374億円で全国の約83%。